

日本文学全集 全30巻

全巻解説 池澤夏樹

* 月刊

01 古事記 池澤夏樹 訳 新訳 2000円 72871-1
世界の創成と神々の誕生から国の形ができあがるまでを描く最初の日本文学。神話と歌謡と系譜からなる錯綜のテクストを今の我々が読める形に。

02 口訳万葉集 折口信夫 訳 新訳 2600円 72872-8
百人一首 小池昌代 訳 新訳
新々百人一首 丸谷才一
和歌の歴史を始まりから爛熟期まで九百年に亘って辿り、精選した歌に達意の訳と周到な註釈を添える。

03 竹取物語 森見登美彦 訳 新訳 2800円 72873-5
伊勢物語 川上弘美 訳 新訳
堤中納言物語 中島京子 訳 新訳
土左日記 堀江敏幸 訳 新訳
更級日記 江國香織 訳 新訳
「もの」を「かたる」のが文学である。奇譚と冒険と心情、そこに詩的感興が加わって、物語と日記はこの国の文学の基本形となった。

04 源氏物語 上・中・下 角田光代 訳 新訳
05 上 3500円 72874-2 / * 中 3500円 72875-9 / * 下 3500円 72876-6
世に優れて魅力ある男の物語がたくさん登場人物を連れて際限なく広がる。その一方で人の心の奥へも深く沈んでゆく。いうまでもなく日本文学最大の傑作。

06 枕草子 酒井順子 訳 新訳 2800円 72877-3
方丈記 高橋源一郎 訳 新訳
徒然草 内田樹 訳 新訳
随筆とは筆に随うの意である。そこで筆がどれほど自在に遠くまで人を連れ出すことか。現代の日本人の感受性はこれらの随筆に由来すると言ってもいい。

07 日本霊異記 伊藤比呂美 訳 新訳
08 今昔物語 福永武彦 訳 新訳
宇治拾遺物語 町田康 訳 新訳
発心集 伊藤比呂美 訳 新訳 2900円 72878-0
説話文学は仏教を説きながら、実は人間のふるまいの放縱を語る。教義からの野放図な逸脱はむしろ哄笑を誘うだろう。

09 平家物語 古川日出男 訳 新訳 3500円 72879-7
古代日本で最も武張った年代記。栄華から滅びにいたる道筋の哀感を、語り物につながる文体で伝える。

10 能・狂言 岡田利規 訳 新訳 3500円 72880-3
説経節 伊藤比呂美 訳 新訳
曾根崎心中 いとうせいこう 訳 新訳
女殺油地獄 桜庭一樹 訳 新訳
菅原伝授手習鑑 三浦しをん 訳 新訳
義経千本桜 いいしんじ 訳 新訳
仮名手本忠臣蔵 松井今朝子 訳 新訳
かつて今も、舞台からは人の声が響く。そこから演ずる者と見る者の交流が生じる。その喜びと興奮を現代の言葉で再現する。

11 好色一代男 島田雅彦 訳 新訳 3000円 72881-0
雨月物語 円城塔 訳 新訳
通言総籙 いとうせいこう 訳 新訳
春色梅児誉美 島本理生 訳 新訳
江戸期は市民の時代であり、先取りされた近代であった。日本の小説は既にこの時期に完成していたのかもしれない。

12 松尾芭蕉 おくのほそ道 松浦寿輝 選 訳 新訳
与謝蕪村 辻原登 選 新訳
小林一茶 長谷川權 選 新訳
とくとく歌仙 丸谷才一 他 2600円 72882-7
俳諧は自然と世間と人間を結ぶ。俳聖たちの句に連歌から発句を経て俳句に至る流れを辿り、現代の連歌として丸谷才一らの歌仙を取る。

13 樋口一葉 たけくらべ 川上未映子 訳 新訳
夏目漱石 三四郎 2900円 72883-4
森鷗外 青年
明治はまずもって清新な時代であった。まずは擬古文ながらモダンな一葉の「たけくらべ」を現代語訳で供し、その後知的な青年を主人公とした「三四郎」と「青年」を配置する。

14 南方熊楠 神社合祀に関する意見 2900円 72884-1
柳田國男 海上の道 根の国の話 他
折口信夫 死者の書 砦が国へ・常世へ 他
宮本常一 土佐源氏 生活の記録 他
民俗学は文学のすぐ隣にいる。ではそこまで文学の領域としてしまおう。実際の話、境界はないのだ。

15 谷崎潤一郎 乱菊物語 吉野葛 他 2900円 72885-8
あまりに多才で多面的なこの作家の全容はとて一巻には収まらない。それならば最も物語性に富んだものを。
月報 恩田隆 坂口泰平 解題 鶴見太郎 帯装画 高木紗恵子

16 宮沢賢治 疾中 ボラーノの広場 他 2900円 72886-5
中島敦 悟浄出世 悟浄歎異 李陵・司馬遷 他
世界文学を自分の内部に抱え込んだ二人の創作者。詩において、童話において、小説とエッセーにおいて、奔放にあふれるエネルギー。
月報 夢枕獺 古川日出男 年譜 栗原政 山下真史 帯写真 川島小鳥

17 堀辰雄 かげろうの日記 ほととぎす 2800円 72887-2
福永武彦 深淵 世界の終り 廃市
中村真一郎 雲のゆき来
西欧の近代文学と日本の古典を同列に置いて学んだ作家たち。その果ての達成はしなやかな文体と哀れ深い内容となった。
月報 堀江敏幸 島本理生 年譜 鈴木和子 帯装画 舟次第

18 大岡昇平 武蔵野夫人 捉まるまで 他 2600円 72889-9
戦争体験とスタンダールがこの作家を生んだ。昭和という時代の雰囲気と人間の本性を正確に伝える知性の文学。
月報 青山七恵 大林宣彦 年譜 花崎寛代 帯装画 今日子

19 石川淳 焼跡のイエス 紫苑物語 他 2800円 72890-6
辻邦生 安土往還記
丸谷才一 横しぐれ 樹影譚
この三人を基底するのはモダニズムという原理である。今の我々の文学はまずもってこの原理の上に成立している。
月報 鹿島茂 町田康 年譜 中条隆史 帯装画 古賀香江

20 吉田健一 文学の楽しみ ヨロロッパの世紀末 他 3100円 72890-2
批評という文学形式において近代日本が生んだ最も価値ある二冊。その傍らに巧緻な翻訳と機略の小説、洒脱のエッセーを配する。
月報 松浦寿輝 柴崎友香 年譜 島内裕子 帯装画 林哲夫

21 日野啓三 向う側 ふしぎな球 他 3100円 72891-9
開高健 輝ける闇 痛覚からの出発 他
現代の日本は他の国々に通じ、海に向こうの戦争や、世界観・宇宙観を共有するようになった。我々は今もこういう時代に生きている。
月報 泉光 角峰唯介 年譜 土野暢子 帯写真 Daylita Singh

22 大江健三郎 人生の親戚 狩猟で暮したわれらの先祖 他 2900円 72892-6
この人の作品世界は広いのでなかなか全容が見えない。政治と理想、女性原理、辺境などの糸で織ったタペストリー。
月報 中村文則 野崎敏 年譜 尾崎真理子 帯装画 できやん

23 中上健次 鳳仙花 半蔵の鳥 他 2800円 72893-3
辺境は実は世界の中心である。熊野を舞台に、欲望・悲しみ・憤り、すなわち人間の自然を書いた作品群を再構成し、彼の小宇宙を現出する。
月報 東浩紀 星野智幸 年譜 市川真人 帯写真 越川菜花

24 石牟礼道子 椿の海の記 他 3100円 72894-0
名作『苦海浄土』を背後で支えていたのは古代以来の人の営みと幸福であった。美しい文体がもたらした反近代の思想。
月報 多和田孝子 小野正嗣 年譜 向南満昭 帯装画 クサギケンヤ

25 須賀敦子 コルシア書店の仲間たち 他 2800円 72895-7
我々は海外の書を読むだけでなく、海外で暮らすところから生まれる文学を得た。それがなぜか最も豊饒な作品に結実したのか。
月報 長野まゆみ 福岡伸一 年譜 松山巖 帯装画 村橋真博 (use as)

26 近現代作家集 I・II・III
I 2800円 72896-4
II 2800円 72897-1
III 2800円 72898-8
久生十蘭 金子光晴 岡本かの子 安岡章太郎
井上ひさし 安部公房 川端康成 村上春樹
津島佑子 筒井康隆 他
この百年の間に書かれた傑作、今こそ読むに価する名作を、もっぱらモダニズムの尺度から選んで供する。
月報 荒川洋治 中島京子 帯装画 草間彌生
II 月報 加藤典洋 斎藤美奈子 帯装画 シヤマザキ
III 月報 池澤春菜 山本貴光 帯装画 池田宇

27 近現代詩歌 池澤夏樹 選
詩 池澤夏樹 選
短歌 穂村弘 選 新訳
俳句 小澤實 選 新訳
詩はいつでもどこでも文学の中心。詩や短歌や俳句はむしろかしいという先入観を一掃するセレクションを実現しよう。
月報 北村薫 アサービチド 帯装画 松井平

28 日本語のために 池澤夏樹 編 2600円 72900-8
祝詞 漢詩 アイヌ語 日本国憲法 他 新訳
日本文学の定義は日本語で書かれていることである。言語と文学の関係明らかにするための実例と日本語論を幅広く集め、豊饒の由来を明らかにする。
月報 豊田清 武田元幸 帯写真 大原次郎 / ホンタカ

